

檀原市立図書館だより

平成25年8月10日発行
第27号

檀の樹

こんな本読んでんねん

P2~3

大淀の作家 花岡大学

P4~5

図書館員の本棚(14)

ブックリスト P6~7

お知らせその他

P8



募 集

こんな本 読んでんねん



お気に入りの図書を小学生の皆さんにご紹介いただく150字書評「こんな本読んでんねん」、昨年は328の応募を頂きました。その一部をご紹介します。

募集の詳細は、図書館ホームページ、館内チラシ、本紙裏表紙をご覧ください。

「空想科学読本シリーズ」 柳田 理科雄 著 メディアファクトリーなど
晩成小 松嶋 祐樹 君

この本は、設定からしてとんでもないことが書いてあります。例えば、ドラえもん
のタケコプターは死を招くや、ウルトラマンセブンがマツハ7で飛ぶとたちまち体
が裂けるなどです。知らなかったことがよくわかります

「ズッコケシリーズ」 那須 正幹 著 ポプラ社 今井小 的場 稀有 さん

今まで読んだ本の中で、一番笑ってしまってとても良かったです。主人公3人は、
みんな性格がいいと思います。ひとりひとりがちがった性格で、そういったところ
がおもしろかったです

「ザ・ビートルズ」 広田 寛治 著 講談社 耳成南小 平田 花梨 さん

夏休み用の本なのに、帰ってすぐに読み始めてしまいました。ビートルズの歌を
聴いたことがあったので借りました。本には日本に来たときの写真もありました。
ビートルズの歌をもっと聴きたいと思うようになりました

「消防署」 羽豆 成二 監修 リブリオ出版 白北小 きい あつし 君

1000度以上の火を消したり、油圧カッターの力など、すごい。24時間ずっと交
代でたいへんだなと思いました。消防署の仕事は、火を消すだけではないこと、訓
練もすごく大切なことなどがわかりました

「白い馬をさがせ」 キング D スミス 著 谷口 由美子 訳 童話館出版
晩成小 越地 竜也 君

もともと動物の話がすきなので気に入りました。ねるのがすきな犬と、りこうなねこ
がコンビを組んで、にげだしたりするのがすごくスリルがあって楽しいです。動物
のめせんで楽しめます。すこしかわいそうなこともあるけど、それをのりこえるとこ
ろがかっこいいです。

「グレッグのダメ日記」 ジェフ キニー 著 ポプラ社
耳成西小 田中 華奈 さん

主人公グレッグの学校や家での日常が、たくさん書かれています。友達とタイムカ
プセルをつくったり、好きな子ができて仲良くしようがんばったり、父にサッカーチ
ームに入れられて……。母にはしかられ、父にはほめられ、いろんなことがおきて
とても面白い！ この後は、どうなっちゃうの？

表紙画像を割愛して
います。

「まんがで学習 ゆかいな川柳 五七五」 荻原 昌好 編 あかね書房
今井小 岡本 拓也 君
「こんな川柳もあります。どう見ても ぼくのケーキは 小さいぞ 『勉強は?』
いつもつもうるさい 母の声 先生は 体育つぶして 国語やる ……」

「捨て犬・未来と子犬のマーチ」 今西 乃子 著 岩崎書店
耳成南小 横谷 若菜 さん
捨てられた犬の悲しみが分かる本です。命には無限の可能性がある。生きていけば、変わることができる。「やさしさはどんな武器より強い」と書いてあった。私は、自分がこまっている時に、この言葉を思い出そうとおもいます。こまっている人に伝えたいです。

「日本の年中行事」 深光 ふじ男 著 学研
白檀北小 松永 あい さん
この本は、日本の行事のことがわかります。例えば「母の日」など、そういう日がなぜできたのかもわかります。行事だけでなく、お茶のこと、体のことなどのいろいろな「ひみつ」についても書いてあって、わかりやすいです。1年～6年の子までみんなが読める本なので、読んでみてほしいです。

「車いすの犬チャンプ」 池田まき子 著 ハート出版
鴨公小 中山 雄輝 君
事故にあった犬が、まひした足を切断し、飼い主から車いすをつくってもらいます。色々なひとにあって、みんなの人気ものになりました。この犬のことをして、生きる希望をとりもどした人もいたそうです。この話は、ほんとうにあった話です。

「しっぽをなくしたイルカ」 岩貞 るみこ 著 講談社
白檀北小 出垣内 理夏 さん
沖縄美ら海水族館のバンドウイルカ、フジの物語です。フジは、原因不明の病気で尾びれをなくしてしまいます。この本で良かったところは、ブリヂストンの人が人工尾びれをつくるのに協力してくれたところです。感動したところは、フジが人工尾びれで泳げたところです。

「The MANZAI」あさの あつこ 著 ポプラ社
畝傍北小 森岡 咲帆さん
主人公の歩(男)が湊第三中学校に転校して、同級生の秋本(男)に「おつきあい」を申し込まれたところから始まります。しかし「おつきあい」というのは……。歩と秋本のやりとり自体が「お笑い」みたいで、つい笑ってしまいます。でも少し悲しい場面もあったり……。読むとハマってしまうかも。

「ながいながいペンギンの話」 いぬい とみこ 著 岩波書店
今井小 長島 絢乃さん
ペンギンの兄弟が生まれたばかりなのに元気いっぱい、両親の留守に家を抜け出す話です。冒険もあります。悲しいペンギンの過去、天敵のカモメに襲われかけるなど、ドキドキ、ハラハラの本です。ペンギンの一生懸命さが伝わってくるともすてきな話です。

表紙画像を割愛しています。

◆◆◆その他、多数から支持された人気図書(一部抜粋 含シリーズ)

「かいけつゾロリ」「若おかみは小学生」「あらしのよるに」「ヤング・インディ・ジョーンズ」「マジック・ツリーハウス」「デルトラクエスト」「黒魔女さんが通る」「はだしのゲン」「借りぐらしのアリエッティ」「不思議の国のアリス」「宮沢賢治関連」「金子みすゞ関連」「モーツァルト」「シートン動物記」「名探偵シリーズ」「番長シリーズ」など

ほとけのころとやさしいことば

大淀の作家

花岡 大学



花岡大学の生家である大淀町佐名伝所在、浄迎寺。

花岡 大学(はなおか だいがく)
1909～1988
児童文学作家。龍谷大学文学部卒。奈良県立吉野女学校(現大淀高校)教諭等を経て京都女子大学教授。「かたすみの満月」により小川未明奨励賞。他著作多数。

梨山が低い起伏を連ねる大阿太高原と、吉野川の峡谷に挟まれた、旧街道沿いの静かな里、吉野郡大淀町佐名伝。その里寺で、文学愛好家であった父の慈愛を受け、花岡大学は恵まれた青少年期を過ごしました。成人後、教職や僧職の傍ら、児童文学作品の執筆に打ち込んでゆきます。

もっとも、僧職や教職に身を置きながら、執筆への想いを断ち切れない大学に対して、周囲は常に好意的であったわけではなかったともいいます。理想と現実の狭間で、7人の子どもを養育しながら自らの文学を模索した日々の哀歓が、数々の作品の中に垣間見えます。

代表作のひとつである「かたすみの満月」には、そんな自伝的要素が色濃く投影されています。

吉野川沿いの寺院の住職である良海さんは、夏祭りのご馳走を子どもたちに食べさせたくて仕方ありません。ところが、よめさんは首を横に振るばかり。良海さんの家族は9人。配給品で辛うじてしている家計には、寿司桶を一杯にするだけの塩鯖や米を購う余裕はないというのです。ため息を重ねる良海さんの目に、庫裡の片隅が映ります。空の桶に、手折ってきたばかりの山と積まれた青々とした柿の若葉が……。

うちではおすしをつくらぬことを、よくしょうちしながら、おくびにもそんなふうはみせず、よそのこどもたちよりもさきに、高い柿の木によじのぼったことであろう。(中略) けっしてこれを、親たちにたいして、おすしを作れというこどもたちのあてつけがましいさいそくであるなどと、よごれた解釈をしてはならない。せめて、おすしの葉だけでもとってきて、ここへおいたというだけで、おそらくこどもたちは満足しているのであろう。……

これは、良海さんの胸にしんにこたえる。ぼろぼろと涙があふれでてくる。

「おい、こらっ」と、良海さんは、よめさんをにらんで、毅然としていった。

「わしがかえってくるまで、この葉を、ここにおいといてくれ、どこへもやっちはいかんぞ、ええか」

……どこからともなく食料品を持ち帰ってきた良海さんは、威勢よくおすしづくりを号令します。

火事場のようなさわぎが、庫裡をどよもし、本堂まで聞こえてくる。

そのさわぎは、なぜこんなに、心をあかるくするのであろうか。……

その夜、本堂で勤行中の良海さんが、ほとけさまにつぶやきます。

「ごぞんじの通り、すっからかんの貧乏坊主で、ほかにもうなにも売るもんがございませんから、もったいないこととは思いますが、水晶のお数珠をもちだしましたまつでございます。坊さんともあろうものが、お数珠を売りとはばして、塩さばだのお米だのを買ったりして、自分の小さなしあわせをもとめたということは、重々わるうございました。……かんにんしとくなはれ……」

→右上へ

→左下から

大学の著作には、ほのぼのとしたこの代表作とはかなり違った印象を読者に与えるものも少なくありません。殉教者として全身を刺し貫かれて最期を遂げる「がまぼとけ」など、読み手に「残酷」な印象を与えかねない場合も少なくないのです。しかし、「真実」を強烈な印象として読者に提供することが、仏教文学者としての自らの役目でもある……。大学はそう考えていたのかもしれませんが。

花岡大学とその作品群の顕彰に携わっている大淀町教育委員会の松田度主任技師によれば、花岡作品の本質は、「ほとけのころとやさしいことば」にあるといいます。「ほとけのころ(仏心)」とは、仏教的な精神をもつ人の心。一方、「やさしいことば」とは、誰にでもわかりやすく平易であるという意味の「易しい」と、慈愛や慈悲の精神につながる心根のやさしさを意味する「優しい」の、ふたつの意味が重なるといいます。

時には「抹茶臭い」といった批評にもさらされた花岡作品ですが、『社会不安や人間不信におちいることの多い現代において、花岡作品に込められたメッセージは、「考えるヒント」を私たちに与えてくれるのではないか』、松田さんはそう分析しています。



文化庁の助成を受けて、大淀町が花岡大学生誕100年を記念して作成した冊子「花岡童話作品集」。代表作「かたすみの満月」が収録されています。

檜原市立図書館が所蔵している花岡大学に関する図書リスト(抜粋)

書名	著者名	出版社等	所収作品等
10分で読める名作 1年生	岡信子 選	学研	「さるのてぶくろ」
10分で読める物語 4年生	青木信生 選	学研	「谷間に光る緑の風」
読書の時間によむ本2 小学3年生	西本鶏介 編	ポプラ社	「とまった電車」
読書の時間によむ本 小学6年生	西本鶏介 編	ポプラ社	「うろこ雲」
読書の時間によむ本2 小学6年生	西本鶏介 編	ポプラ社	「屁っぶり嫁さま」
せかいの昔話 1 2	花岡大学 再話	同朋社	(NHK放送台本おはなしの森)
せかいの伝説 1 2	花岡大学 再話	同朋社	(NHK放送台本おはなしの森)
せかいの童話 1 2	花岡大学 再話	同朋社	(NHK放送台本おはなしの森)
花岡大学仏典童話集 1 2 3	花岡大学	佼成出版社	
3分間で読む人生の極意	花岡大学	同朋社	
3分間で読む成功の秘訣	花岡大学	同朋社	
3分間で読む生きる喜び	花岡大学	同朋社	
花岡童話作品集	花岡大学	文化庁・花岡大学生誕100年記念事業実行委員会	

花岡大学については、大淀町立図書館の所蔵図書が充実しています。館内には「花岡大学コーナー」も常設されています。 大淀町立図書館 大淀町桧垣本2090 電話 0747-54-2120

* このページは、6月9日に行ったミニ講演会「大淀町の作家 花岡大学さんのこと」を再構成したものです。

図書館員の本棚(14)

矢崎 節夫 選

JULA出版局「金子みすゞ童謡集 明るいほうへ」 その他

山口県長門市仙崎は、かつて捕鯨で栄えた。近隣では、鯨たちの霊を慰める鯨法会が行われてきた。鯨に限らない。軒先が重なりあう路地には、水揚げされたばかりの魚介類が行商人によって日々運び込まれた。生きものの命のやり取りを基礎にして活気づく人間の暮らし……。そしてそうした暮らしのひとつひとつにも、他に置き換えることができない切実な喜怒哀楽がやどっている……。

仙崎という独特の風土の中で幼少～青春期を過ごしたことが、みすゞの天性の資質を、さらに深いものにしたのかもしれない。

みすゞの視線は、あらゆるものにそそがれる。一網打尽にされる多数の翹、父母を失った子鯨、小鳥、蟻、名もない野の草花……。そうした小さな命だけではなく、上下から圧迫され、暗闇のなかでただじっと存在しているしかない雪の塊や、それ自体は何の存在意義もなさそうな路傍の土くれに対してさえ、視線は注意深くそそがれる。そして対象をいとおしみ、寄り添うように親和する。

花屋の爺さん / 花売りに、 / お花は町でみな売れた。
花屋の爺さん / さびしいな、 / 育てたお花がみな売れた。
花屋の爺さん / 日が暮れりゃ、 / ぽつり一人で小舎のなか。
花屋の爺さん / 夢にみる、 / 売ったお花のしあわせを。

(童謡集「明るいほうへ」所収「花屋の爺さん」)

金子作品の特長のひとつは、ポエムやメルヘンにとどまらない、世界をみつめる視線の深さ、そうした視線を放つ瞳の透明度の高さにあるのではないだろうか。つましい作品は、言葉少なく、唄でも歌うようにわずかに語られるだけなのだが、爺さんに残されたわずかな余生を、花が花でいられる日数を、冷厳なまでの正確さで見つめている。

そして、こうした視線と瞳を持つ者もまた、ひとりの生活者として現実を生きなければならなかった。精密な視線が何を捉えなければならなかったかを、純度の高いところが何に苦しまなければならなかったかを想像してみる時、「痛ましい」といった感情を拭うことができない。

*

遺稿となった3冊のノートは、忘れ去られようとしていた。だが著者の没後半世紀を経て、作品を愛惜する読者のひとりであった矢崎節夫氏の調査によって発見され、多くの読者に届けられる存在となった。

金子みすゞ(本名 金子テル)
1903～1930 山口県生まれ。大津
高等女学校卒。

家業の書店経営に従事しながら「童話」「婦人倶楽部」などに寄稿、西條八十らに認められる。1982年、実弟宅より遺稿が発見され、今日の出版の基礎となった。

表紙画像を割
愛しています。

金子みすゞ童謡集「明るいほうへ」 選者 矢崎 節夫
JULA出版局

表紙画像を割
愛しています。

金子みすゞ 著
「現代仮名づかい版 金子み
すゞ童謡全集① 美しい町・上」 JULA出版局

表紙画像を割
愛しています。

金子みすゞ著
「現代仮名づかい版 金子みすゞ
童謡全集③ 空のかあさま・上」
JULA出版局

檀原市立図書館が所蔵している金子みすゞに関する図書(抜粋)

書名	出版社	出版年	背ラベル番号 (請求記号)
なしのしん 金子みすゞ童謡絵本	JULA 出版局	2002.7	726.6/イト/
キネマの街 金子みすゞ童謡絵本	JULA 出版局	2001.7	726.6/フカ/
おひさん、あめさん 金子みすゞ童謡絵本	JULA 出版局	2002.7	726.6/モリ/
明るいほうへ 金子みすゞ童謡集	JULA 出版局	1995.3	911.58/カネ/
金子みすゞ きょうの私にさよならしましょ。永遠の詩	小学館	2009.11	911.58/カネ/
金子みすゞでのひら詩集(1～2)	JULA 出版局	2003.4	911.58/カネ/1～2
金子みすゞ南京玉 娘ふさえ・三歳の言葉の記録	JULA 出版局	2003.4	911.58/カネ/
こだまでしょうか、いいえ、誰でも。金子みすゞ詩集百選	ミヤオビパブリッシング	2011.5	911.58/カネ/
さみしい王女 矢崎節夫と読む	JULA 出版局	2012.4	911.58/カネ/
さみしい王女(上下) 現代仮名づかい版 金子みすゞ童謡全集	JULA 出版局	2004.3	911.58/カネ/1～2
美しい町(上下) 現代仮名づかい版 金子みすゞ童謡全集	JULA 出版局	2003.10	911.58/カネ/1～2
空のかあさま(上下) 現代仮名づかい版 金子みすゞ童謡全集	JULA 出版局	2004.1	911.58/カネ/1～2
花 みすゞ詩画集	春陽堂書店	2000.4	911.58/カネ/
春 みすゞ詩画集	春陽堂書店	2000.12	911.58/カネ/
夏 みすゞ詩画集	春陽堂書店	2001.7	911.58/カネ/
秋 みすゞ詩画集	春陽堂書店	2001.10	911.58/カネ/
冬 みすゞ詩画集	春陽堂書店	2002.1	911.58/カネ/
みすゞさん(第1集～第2集)	春陽堂書店	1997.6	911.58/カネ/～2
星とたんぽぽ 金子みすゞ詩の絵本	金の星社	2005.4	911/カ/
わたしと小鳥とすずと 金子みすゞ詩の絵本	金の星社	2005.4	911/カ/
ふしぎ 金子みすゞ詩の絵本	金の星社	2005.11	911/カ/
明るいほうへ 金子みすゞ詩の絵本	金の星社	2005.11	911/カ/
おさかな 金子みすゞ詩の絵本	金の星社	2006.1	911/カ/
金子みすゞ全集(1～3)	JULA 出版局	1984.8	911/カ/1～3
空のかあさま 影絵ものがたりシリーズ	新日本教育図書	1997.2	E/イ/
ほしとたんぽぽ	JULA 出版局	1985.10	E/ウ/
ふうちゃんの詩 金子みすゞ《南京玉》より	JULA 出版局	1995.11	E/ウ/

檀原市立図書館

〒634-0075
檀原市小房町11-5

tel:
0744-29-2121

fax:
0744-29-1011

http:
[//www.city.kashihara.jp/toshokan](http://www.city.kashihara.jp/toshokan)

編集後記

展示資料を借用するため、花岡大学の生家を訪ねた。帰途、大淀町教委の担当者に、花岡家の墓所に案内される途上、よみがえってくる35年前の初夏の光景があった。

絵本の世界から抜け出てきたような小さな高原の駅。そこから、ゆるやかにくだる坂道。それは、祖父とかつて歩いた道だった。小学教員を定年退職していた祖父に伴われ、その日、佐名伝の川辺で釣りをした。連れ立って一緒に出かけたのは、あれが最初で最後だった。

庭木の手入れの他は、時おり雑魚釣りに出かけるぐらいが、引退後の小さな楽しみであっただろう。馴染みの釣行先に佐名伝を選んだのは、梨山や川辺の風景が他所よりも美しかったからか。それとも、盆地から単線の私鉄で出かけるには、近場で好都合だったからか。

あるいは、もっと別の理由があったのかもしれない。明治末に生まれた祖父は、花岡大学とは同世代であった。その口から、大学の名が漏れたことも何度かあったと記憶している。ノートに片々としたものを書き溜めていた祖父は、大学に対して、親しみとほのかな羨望を抱いていたのではなかったか――。

川に出かけられなくなってから、祖父は書き溜めたものをまとめて小さな冊子を自費出版した。多数の著作と接する図書館員の眼から読み返すと、それは鼻真目にも他者の読解に耐えるものではなかったけれども……。

新緑の萌える高原で、作家の風貌について語る担当者の話に耳を傾けながら、鬼籍に入って久しい肉親の横顔を思い返した。

(編者)

こんな本読んでんねん

—紹介する本は、檀原市立図書館にある本から選んでね—

応募用紙に、紹介したい本のオススメするポイントなどを書いて応募してください。選考のうえ、「広報かしはら」で紹介します。また、図書館でも本といっしょに書評を展示します。

- ◆応募できるひと 檀原市内の小学4, 5, 6年生
- ◆紹介する本 檀原市立図書館にある本
(絵本、事典、成人向けの本でもかまいません)
- ◆紹介する内容 150字以内で、なぜオススメなのかを書いてください。
どんな本か? (本のあらすじや内容)
良かったところ おもしろいところ
感動したところ どうして紹介したいのか
誰に紹介したいか など自由に書いてください。
- ◆応募する方法 応募用紙に記入して、学校か図書館にある応募箱に入れてください。ひとりで何冊でも紹介できます。
応募用紙は図書館で配布します。また図書館のHPからもダウンロードできます。
- ◆応募締め切り 平成25年9月29日(日)

資料展示のお知らせ

檀原市立図書館が所蔵する図書の中で、平成9年度～平成23年度に貸出が多かった本を展示します。多数の予約が集中して読み損ねてしまった名著を、この機会にお読みいただければと思います。

- ◆期間 9月18日(水)まで
- ◆場所 2F展示コーナー

23年度
「八日目の蝉」「流星の絆」「白銀ジャック」など

22年度
「加賀恭一郎シリーズ」「英雄の書」「幻夜」など

21年度
「告白」「1Q84」「運命の人」など

20年度
「女性の品格」「楽園」「片思い」など

19年度
「天国までの百マイル」「名もなき毒」など

18年度
「ダ・ヴィンチ・コード」「嘘をもうひとつだけ」「容疑者Xの献身」など

表紙の写真

昨年、市内の小学生の皆さんから寄せられた「こんな本読んでんねん」の応募原稿。今年もたくさんのオススメ書評が寄せられることを願っています。